

台原地区社協だより

第 23 号

令和元年 5 月 1 日発行

台原地区社会福祉協議会

発行責任者
台原地区社協だより
編集委員会



100歳時代を迎えるため地域力の強化を図る



台原地区社会福祉協議会 会長 安 積 惇

福祉委員の制度ができて数年後、福祉活動推進員であった私は、青葉区社協研修会の時「福祉委員としての個々の事例」というタイトルで発表したことがあります。

100歳時代いわゆる長寿社会で、老人組織のないところはなおのこと、町内会と一体になって動く福祉委員の役割は極めて大きいと言わねばなりません。

過日、台原地区福祉委員の会合があり37町内会の中で委員空席の町内が17あることが指摘されました。台原地区連合町内会長に福祉委員を充足するための力添えをお願いいたしました。

今年度は新たな陣容でスタートできることを願っております。



民生委員の地域活動

台原地区民生委員児童委員協議会 会長 児 玉 睦 子

台原地区民生委員児童委員協議会（民児協）では、平成26年度から平成28年度にかけ、仙台市民生委員児童委員協議会地域福祉特別委員会のモデル事業「社会的に孤立する方を地域で支える仕組み作り」を実施しました。一つの町内会（玉出町内会）に絞り、民児協が中心となり、台原地区の関係団体の方々や、東北文化学園大学教授の豊田先生に助言を頂きながら成果を得ることができました。

台原地区全体に広めるため、台原地区社会福祉協議会ボランティア育成講座の中で、平成28年には台原東部連合町内会、平成29年度には台原連合町内会、平成30年度には台原北部連合町内会の町内会長はじめ、福祉委員にお集まり頂き実施内容を報告するとともに、民生委員児童委員も加わり、ワークショップ形式で意見交換をしました。世代間交流サロン等を通し、台原地区の各団体が連携し、見守ることの必要性を確認しました。

民児協では児童委員として児童福祉にも力を入れており、主任児童委員が中心となり、未就学児とその母親向けの「子育て支援・おしゃべりサロン」を台原児童館で月1度開催しております。また、児童館と共催で、子育て支援秋の会として「母親向けお茶会」・「親子でお茶体験」を開催し、心のケアに一助を奏しています。

台原小学校の学校支援活動や学校ボランティア防犯巡視員として登下校の見守りに携わっております。

地域の方々が安心して暮らせるよう見守り活動を行っております。



台原東部連合町内会集会所の利用状況について

(平成30年4月1日～31年2月28日)

台原東部連合町内会 会長 渡 邊 努

台原東部連合町内会（親睦、五丁目、玉出、平林、東部の5町内会、約1400世帯）は、台原5丁目の市有地（面積411.14㎡）を借用し、建築面積124.22㎡の集会所建築し、平成28年度に開所しました。

集会所は、大・中・小の3部屋があり用途に応じて使用されております。また、境の戸を開けると100人位の人が入れ、町内会総会等の開催も可能となりました。

集会所ができたことにより、各町内会は会議を活発に開催し、町内会のコミュニティ拠点として大いに活用しています。利用状況は下記のとおりです。

また、連合町内会のメリットとして、5町内会員を対象に『ふらっとカフェ』を連合町内会主催で開催しております。

◎集会所の利用状況

1. 各町内会	54回	859人	2. 連合町内会	18回	612人（含む ふらっとカフェ）
3. 町内会・子供会	12回	245人	4. 民児協	6回	152人
5. その他	20回	563人（含む 市民検診2回	357人）		
計	110回	2,431人			

専用の部屋で サークル活動等を行っている 台原明寿会の利用状況

1. 造花・手芸	47回	224人
2. 民謡	28回	189人
3. カラオケ	33回	372人
4. 健康マージャン	43回	230人
5. 健康体操	20回	338人
6. その他	13回	157人
計	184回	1,510人



地域福祉活動のキーワード

既存の仕組み「町内会・自治会・サロン等」で福祉活動の充実を!!

台原地区福祉活動推進員 鎚 谷 拓

何時の頃からか大家族が核家族に変わり、核家族が高齢者や一人暮らしの生活者を増やしてしまった。

何が悪いわけでもないのですが、何となく住み難く、変に感じているのは私だけでしょうか。

今や人生50年に非ず、100歳時代であるとまで言い切る人達さえ増えてきている、また、人は孤独に耐えながらも生きていかなければならない時代ではある？とも思える。

しかし、それで納得できるのでしょうか、「絆」「繋がり」など少なくとも個だけではできないものの大切さを目指す言葉で、「健康寿命」や「心の拠り所」の為に、他人のことは思わず自分のこととして、助けたり助けてもらったり、否が応でも「隣人・地域の人々・友人等」との関わりが必要になる。福祉活動の根源である「町内会・自治会・サロン等の活動」は、昔から在る組織的な体制であり、それを利用して活動の充実を図れる母体でもある。

地区の社会福祉協議会は、その活動の手助けと為るべく組織で、各地域によって多少の違いがあっても概ね、町内会・自治会の長・地区民児協等で構成される任意団体である。

又、地区社会福祉協議会は地区福祉活動推進員を置き、各町内会等から選考された福祉委員と共に担当区域毎、「高齢者・障害者家族・子育て家族等の要援護者」の「安否確認・日常生活支援活動・専門的な部署への引継ぎ・サロン等」の支援を主な目的としている。

現在各「町内会・自治会等」には、福祉の担当が居ない処もあるが、早い時期に、「福祉部等」の設置をと、思っているところですが「各町内会長・各自治会長」の皆様よろしくお願いいたします。

いま そこにある危機

台原地区民生委員児童委員協議会 主任児童委員 中 條 めぐみ

ものものしい題と思われる方も多いと思います。

しかし、主任児童委員としての私の率直な思いです。主任児童委員になってからわずか2年半ですが、危機感は募るばかりです。

仙台南内では短い期間に乳幼児、小学生、中学生が亡くなりました。これらの悲しい事件は、この台原で起こっても全く不思議はなかったと思っています。地域内の情報をお預かりする身としては、とてもよそ事とは思えないのです。

子供達を取り巻く問題は見えにくくなっています。食事にも事欠くような子供の貧困は16人に1人の割合であるといわれていますが、ぱっと見ただけではわかりません。高級なスマートフォンは持っているけれど子どもに与える食事は無いというのは、昭和生まれの我々にとって信じがたいのですが、そういうことが起こっているのです。

地域で私たちができることは、『気にかけて見守る』・『挨拶を交わす』、それくらいのちいさなことです。それでも無関心にならないこと、それが地域福祉を推進する社協としての大事なことではないでしょうか。そして何か心配なことがあれば躊躇せずに民生委員や福祉委員に話してください、必要な機関につなぐ道になります。私たちができることは小さいけれど、決してゼロではありません。

隠れている危機にぜひ目をむけていただければと思います。

民児協のみなさんと共に歩んで18年

台原地区社会福祉協議会 顧問 千葉 文 男

私が地区社協の会長に就任したのは平成12年のことです。社会福祉を増進するために地域福祉の実情把握が重要と考える、社協と民児協は常に車の両輪としてお互いに助け合い、協力しあうことでした。民児協のみなさんのご協力に感謝の気持ちでいっぱいです。心から御礼申し上げます。

これからも脱輪することなく良好な活動をつづけていくことを心から期待しております。

私も昨年の春、18年間在任した台原地区社協会長はじめ他の役職を退任することを決めたのです。

その理由の一つは、自分の健康上の問題、更にもう一つは母の自宅での介護でした。妻が昼夜母に寄り添い介護している姿を目の当たりにしていると、罪悪感にかられ、これからは妻と二人三脚で頑張ろうと退任いたしました。

夫婦で母の介護を行いながら、福祉活動に関わった18年間は、決して無駄ではなかったと思うようになりました。その母も、去年の5月に満100歳をもって天寿を全うすることができ、「長い間お疲れ様」・「ありがとう」の言葉を伝えることができました。今後、みなさんもこうした問題に直面した場合、決して逃げることなく、寄り添い介護をすることが大事であると思います。

第44回「台原すみれ会」の開催

台原赤十字奉仕団 団長 児 玉 静 夫

平成30年9月21日恒例の「台原すみれ会」150名の参加者により開催いたしました。

台原地区社会福祉協議会と台原赤十字奉仕団の共催により、台原地区に居住の70歳以上の一人暮らしの皆様を対象に毎年この時期に実施しております。

当日は、講演と腹話術による「命を守る防災」、食事会、ビンゴゲームや参加者全員での合唱等を行い仲秋の一日を楽しんでいただきました。

今年度の第45回「台原すみれ会」は、9月18日(水)に予定しています。お待ちしております。



掲示板

「よろしくね」 ふらっとカフェを通して



台原東部連合町内会 副会長 岡 本 仁 子

「私、認知症になると思うからよろしくね。」

「認知症についてもっと早く知っていたら母の気持ちが分かってあげられたかもしれない。」

カフェ来店者やスタッフの声です。

ふらっとカフェ（認知症カフェ）の始まりは、平成28年4月に台原東部連合町内会集会所が開所したのを機に地域に住む会員を繋ぐ場所になるようにと各町内会長、老人福祉会会長、地区社協会長、地区民児協会長、民生委員、福祉委員そして2つの地域包括支援センターの方々のご快諾とお力添えを頂き、スタッフの持ち寄った品でスタートしました。

その後、共同募金会からの助成金で食器・スリッパが揃い、周知のチラシを作成し配付しました。毎回、季節の話題や花でテーブルをカフェらしく飾ってくださる方、布巾や台布巾を届けてくださる方々によって支えられています。

今まで私たちは認知症について、予防の取り組み、関わり方などについて学んできました。今では台原東部連合町内会の枠を越えて、関心のある方々にもご来店いただくまでになっています。

認知症患者と向き合う医師が「認知症にならない努力をするよりも認知症になることを覚悟し、認知症になっても楽しく安心して住み続けられる地域にすることが大事」と話しています。このことをスタッフ一同心に刻み、認知症の方々やご家族の皆様にもスタッフになっていただき、来店の皆様をお迎えできればと思います。認知症に優しい地域としていつの日か「大丈夫よ。ここは認知症の人と歩む地域だから」と胸を張って言える日が来ることを願っています。（カフェ開店日は、毎月第4土曜日の13時～15時。ただし12月は第3土曜日）



平成30年度 会費・協力金 ご協力ありがとうございました。

社会福祉協議会費

(台原地区社協扱い分)

3,355 件
1,125,150 円

赤い羽根共同募金

(台原地区募金会扱い分)

2,337 件
1,263,804 円

日本赤十字社資

(台原地区奉仕団扱い分)

1,045 件
1,104,200 円

ご賛同頂きました会費・協力金は、それぞれの機関に納入いたしました。
ご支援心より感謝申し上げます。

編集後記

新緑が増し過ごしやすい季節となり、学校にも慣れ元氣いっぱいの子供達の登下校の見守りなど地域の皆様のご協力に感謝申し上げます。

新元号初日の会報発行にご協力いただきました皆様、誠にありがとうございます。